
魔法使いに恋した少年

珠梨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法使いに恋した少年

【Nコード】

N2830J

【作者名】

珠梨

【あらすじ】

小学生生活最後の夏休みに悠斗は、有紗と言う女の子と遊園地に行く。

そこで有紗は悠斗に問いかけた。

「悠斗は、もし魔法が使えたらどーしたい?」と。

悠斗は答えた。

「夏に雪を降らせていたいなあ」と。

「悠斗は、もし魔法が使えたらどーしたい？」

小学生生活最後の夏休み。

突然有紗が俺の顔を覗き込んできた。

俺は赤くなつた顔を見られたくなくて天を仰いだ。

「魔法？来年は中学生なのに魔法ってなんだよ」

「いいのお、で、どーしたい？」

「そーだなあ、夏に雪を降らせてみたいな」

「なんで？」

「ん〜なんとなく？」

有紗は去年俺のクラスに転校してきた。

不思議な女の子だった。

金色の髪に青色の瞳。

俺が昔読んだことのある外国の魔法使いのお話に出てくる魔法使いにそっくりだった。

だから俺は有紗をとて親しく感じた。

そして今日はなぜか有紗と出かけることになった。

なんでだっけ．．．？

ああ、思い出した。

有紗が遊園地に行きたいって言い出したからだ。

「ねえ、悠斗、今度一緒に遊園地行こう?」

「はあ?夏に遊園地?暑いじゃん!」

「良いじゃんっ!行こうよっ!」

有紗に上目遣いをお願いと拜まれてしまったら俺は折れるしない。

「わかったよ。行くよ」

「やったあーっ!」

有紗は嬉しそうに笑って悠斗を見た。

そうだ、それで俺はこんな暑い中遊園地へ向かっているのか。

はあ、まあいいや、好きな人と遊園地に来れるなら。

俺は有紗に惚れている。

いつからはわからないけど、俺は有紗に惚れた。

気がついたら俺はいつも有紗を目で追っていたのだ。

「なんとなくくつてなんなのよ？」

「わかんねえよ。でも、夏に降ってる雪って見てみたいじゃん？」

「確かにそうだね」

「だろ？あゝなんかこんなこと言ってたらマジで見たくなくなってきたわあ」

「じゃあ、見せてあげるよ」

「は？」

有紗はふわっと笑うと悠斗の手を取り、遊園地に向かい始めた。

なんだ、さっきの意味深な言葉は。

遊園地は結構混んでいた。

「うわあ、すげえ人の数だなあ。しかも超暑し」

「ホントだねえ」

「あゝあ、雪降ってほしいなあ」

俺は冗談で言った。

そしたら・・・

「見せてあげるよ」

有紗はそう言い、片手を空に向かって突き出した。

すると、雪がひらり、ひらりと空から落ちてきた。

それは、悠斗の手のひらに乗り、冷たいと思った時にはもう水になっていた。

「えっ、雪？」

雪はひらり、ひらりとたくさん落ちてきた。

「ママっ！雪だよ！雪が降ってきたっ！」

「夏なのに雪？おかしなこともあるもんねえ」

雪は落ちてすぐに水となって消えていく。

「うん、だって悠斗見たかったんでしょ？」

「そうだけど・・・これって」

「魔法。あたしね、魔法使いなの」

「へ？」

自分でもびっくりするぐらい間抜けな声が出た。

「あたし、魔法使いなの。言わないでごめん。言ったら嫌われちゃうかと思って」

言えなかったの。だってあたし、悠斗のことが好きで・・・」

「ばーか」

俺はにゅと笑って有紗の髪をぐちゃぐちゃとした。

「嫌いになるわけないだろ？彼女が魔法使って最高じゃん」

「え？」

「俺も、有紗のことが好きだよ」

「本当に？」

「おう、本当だ」

「ありがとっ」

有紗は俺が今まで見てきた中で最高の笑顔を俺に向けてくれた。

そして季節外れの雪の中で俺と有紗は軽い口付けを交わした。

俺は今、魔法使いに恋してる。

(後書き)

あたしは昔魔法使いになりたかったのだからちょっと書いてみました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2830j/>

魔法使いに恋した少年

2011年1月26日12時52分発行